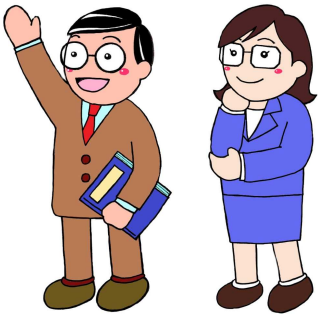
アキタラクティブ　　アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～

家庭，
技術・家庭（家庭分野）編

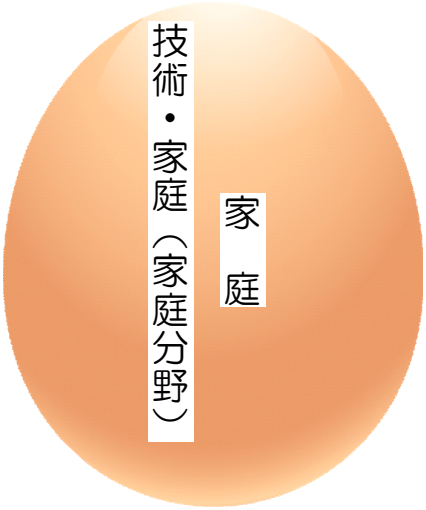


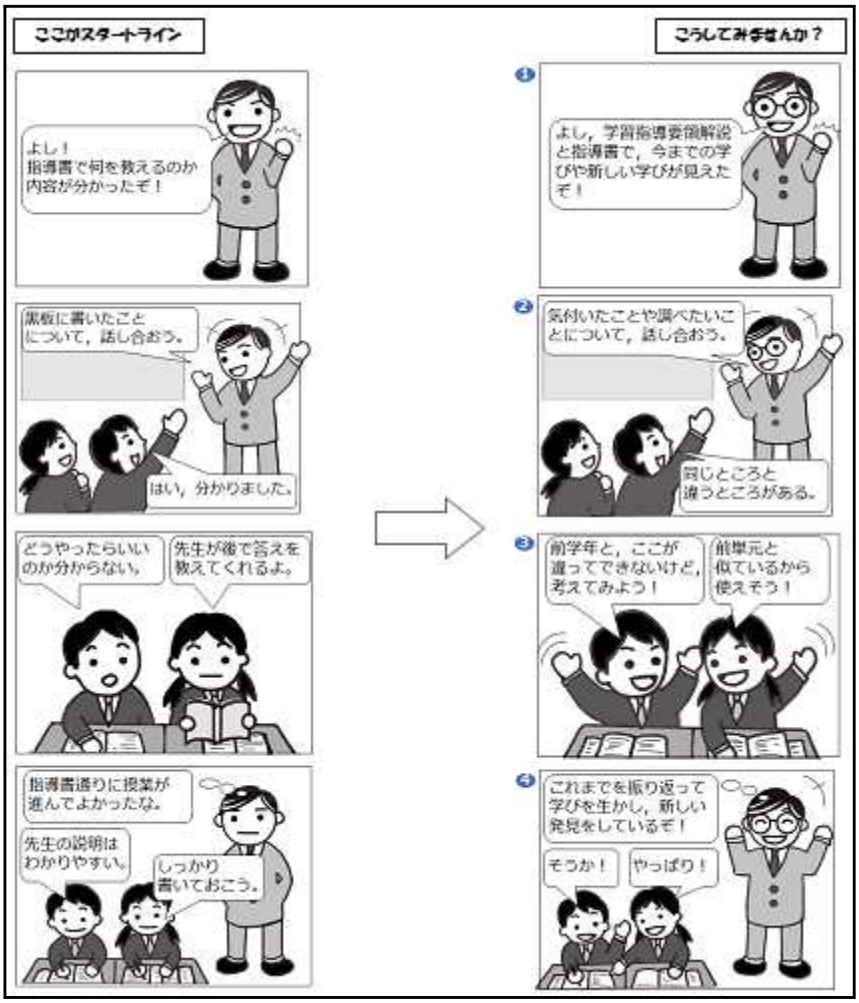
秋田県総合教育センター

2019.10.10

学びの出発

これまでの学びを振り返り，学びの中での気付きを手掛かりに新たな学びが始まる。





キーワード

子どもの実態把握

題材設定

1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

この授業で身に付けさせたい力は何だろう？

家庭科，家庭分野で育てたい資質・能力を意識しましょう。

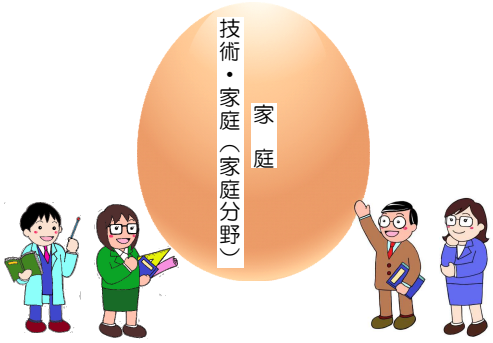
「小学校家庭科，中学校技術・家庭 家庭分野　資質・能力の系統表」（小学校学習指導要領解説家庭編P84，中学校学習指導要領解説　技術・家庭編P118）も確認しましょう。

◇入念な教材研究をする

子どもの実態を把握した題材設定をしていますか？

生活との関わりや地域・社会とのつながりを重視し，子どもの興味・関心を高める導入を工夫しましょう。そのためには，生活経験等の子どもの実態を把握しておくことが大切です。

例）子どもの実態：「だし入り味噌」を使っている家庭が多い。
「だしの役割に気付く」ことをねらいとする授業の導入なら・・・
「みそしるを作る」だけの作業学習とならないようにしましょう。
例えば，導入時に「だし入りの湯」と「湯」それぞれにみそを溶いたものを飲み比べ，だしのおいしさに気付かせる活動を取り入れる，等。



Akitaractive Eye
主体的・対話的で深い学びのために　vol.01

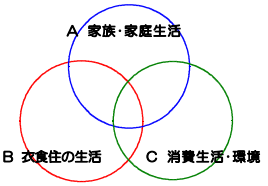
2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

これまでの学習と関連付けて考えることができるような題材を選んだり，展開を工夫したりしていますか？

・家庭科，家庭分野の学習方法の特質は，生活を営む上で必要な内容について，実習や観察，調査，実験等の実践的・体験的な活動を通して学習することです。
・題材を構成する際には，子どもの実態等を踏まえつつ，内容相互の関連を図り，指導の効果を高める工夫をしましょう。

例）中学校技術・家庭　家庭分野　　内容相互関の関連を図るイメージ



・A「幼児の生活と家族」とB「日常食の調理と地域の食文化」との関連→幼児向けの間食作り
・A「幼児の生活と家族」とB「生活を豊かにするための布を用いた製作」との関連→幼児の遊び道具の製作等も考えられます。

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

子どもの感想や作品等を，授業に活用しましょう。

例）ワークシートの掲示
　授業で活用した子どものワークシートを家庭科室等に掲示し，振り返って確認ができるようにします。
　家庭科室の壁面に十分なスペースが確保できない場合は，廊下などに掲示したり，数枚を一つにまとめた「めくり式」にし掲示することも有効です。
　下学年の掲示物を見て，過去の学習を振り返ったり，上学年の掲示物からこれからの学習内容を想起したりすることができます。

4 新たな学びを出発させるために

教師が一方的に本時の課題を設定していませんか？

◇適宜,振り返る場面を設定する

・前時の学習又はこれまでの学習を想起させる場面を設定しましょう。
・これまでの学習だけでなく，自分の生活と関連付けて振り返ることができるような資料を提示する等も考えられます。

◇課題づくりの場を設定する

これまでの学習を振り返って生まれた，子どもの疑問や気付きを生かして，本時の学習課題を設定しましょう。

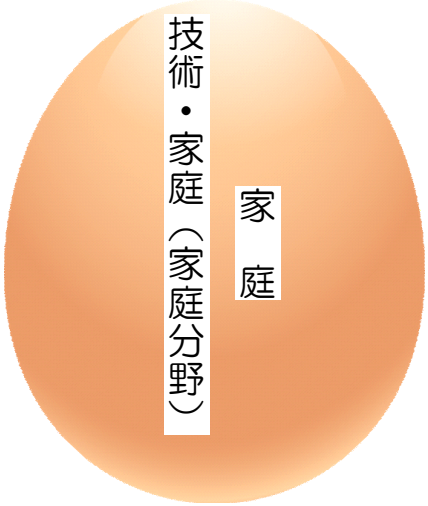
家庭科，技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ，生活の中から問題を見いだし，解決すべき課題を設定する	生活に関わる知識及び技能を習得し，解決方法を検討する	解決の見通しをもち，計画を立てる	生活に関わる知識及び技能を活用して，調理・製作等の実習や，調査，交流活動などを行う	実践した結果を評価する	結果を発表し，改善策を検討する	改善策を家庭・地域で実践する

小・中・高等学校学習指導要領解説より

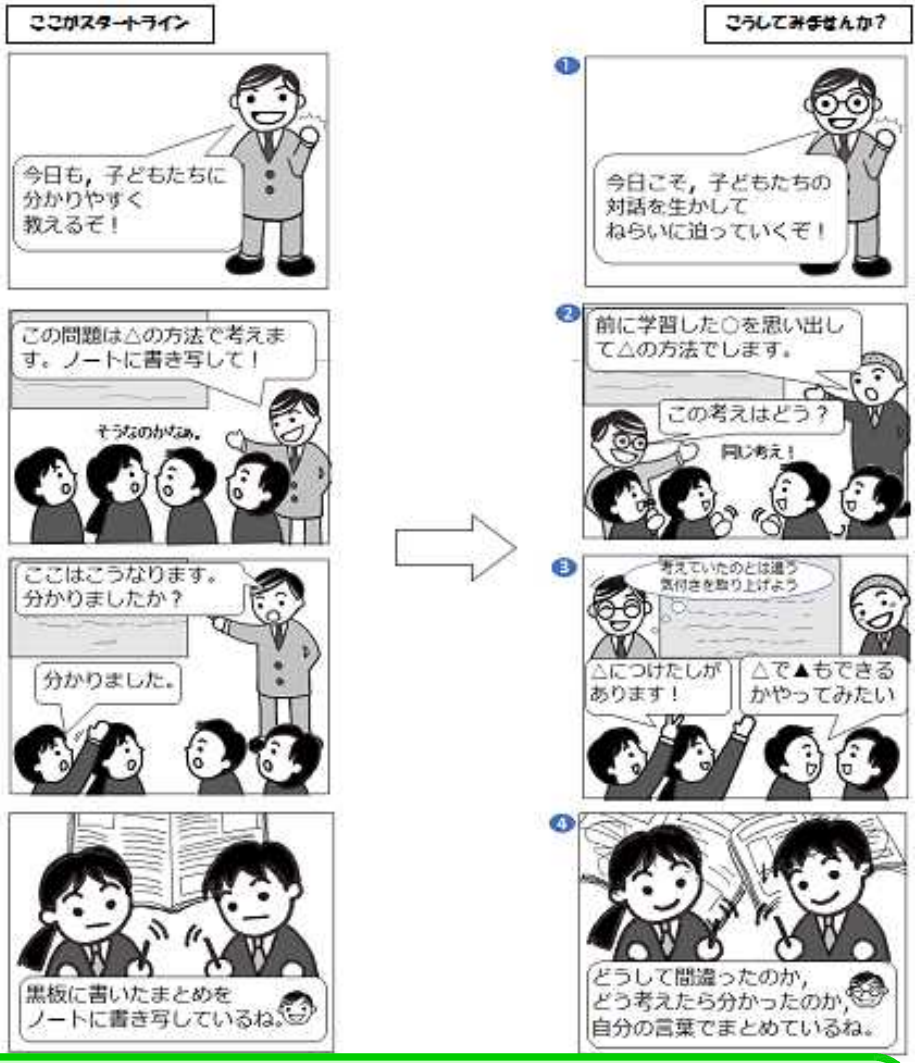
学びの再思考

互いの考えを伝え合い，相手の考えを受け止め，自分の考えを練り直す。



キーワード

多様な学習活動



1　ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

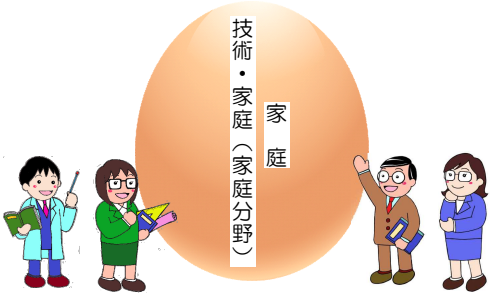
・学習のねらいを考慮し，実習（製作・調理），観察，実験，見学，調査，研究等の学習活動を，それぞれの特徴を生かして設定しましょう。
・個，ペア，グループなどの学習形態を必要に応じて使い分けましょう。

例）ハンバーグを題材にした学習
肉の調理性の理解をねらいとするなら「実験」や「観察」
ハンバーグの調理技術の習得をねらいとするなら「実習」

◇効果的な学習支援を考える

・学習のポイントを，子どもが自ら確認できるよう，ヒントカードを用意したり，黒板掲示等を工夫したりしましょう。
・学びたくなる，知りたくなる，調べたくなるような学習環境づくりを心掛けましょう。

例）生活を豊かにするための，布を用いた製作
日常生活において「縫う」経験が少ない子どもは，製作の手順や方法等に関する知識も少ないことが予想されます。より分かりやすい資料として「製作品の見本」や「段階標本」等の資料を準備することも有効です。



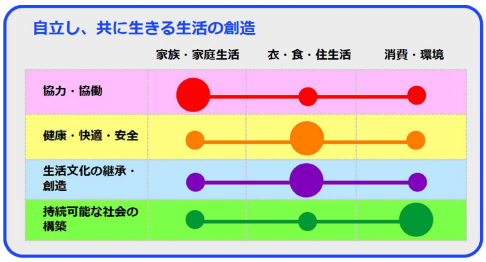
Akitaractive Eye
主体的・対話的で深い学びのために　vol.02

2 「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

取り上げる内容や題材等により，重視する「生活の営みに係る見方・考え方」は異なります。各視点を軸とした知識を相互に関連させて捉えることができるよう，意図的にこれまでの学習を想起させる等の工夫をしましょう。

「生活の営みに係る見方・考え方」
協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築の視点



教育課程部会　家庭，技術・家庭ワーキンググループ資料より

◇多様な展開を考える

- 子どもの発達の段階に応じて，考える視点を身近な生活から社会へと広げられるよう工夫しましょう。
- 他者と対話したり協働したりする場面を設定しましょう。

例）
家族へのインタビュー，ゲストティーチャーの活用，ロールプレイング等

3 気付きを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する

題材やある程度の時間のまとまりの中で，子どもの思考の流れが分かるようなワークシート等を準備しましょう。

例）一枚のポートフォリオで学習内容をまとめていくと，自分の思考の流れが把握しやすくなります。また他者の意見も整理できるように，使用するワークシートに「友達からの意見」を貼り付けるスペースを設けたりする等の工夫も考えられます。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

適切な支援ができるよう，子どもの実態（学習状況，生活体験の有無等）を把握しておきましょう。

例）授業者の予想とは異なる視点での発言や，的外れのように感じられる回答であっても，子どもがうまく表現できないだけという場合もあります。授業者が授業のねらいを常に意識して，子どもの発言の意図を汲み取り，再思考を促すことも必要です。

4 問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

- ペアやグループでの活動を取り入れ子どもが多くの考えにふれることで計画を練り直したり，実践内容を改めたりできるようにしましょう。
- 子どもが構想や計画を練ったり，自分の考えをまとめたりする時間を十分確保しましょう。

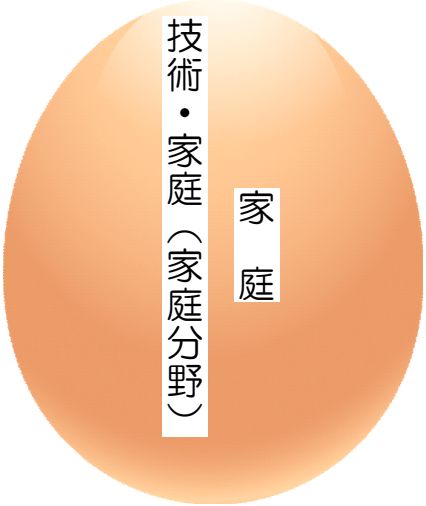
◇獲得した学びをまとめる場を設定する

調理や製作等の実習や観察・実験，乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動等を通して，課題解決に向けて実践したことを発表し合ったり，考察したことを共有したりする活動を随時取り入れましょう。他者の意見を聞くことで，新たな気付きが生まれ，改善策を再検討する際の手掛かりになります。

例）家庭や地域での実践後には，報告会を開いて実践結果の交流をし，その成果を互いに賞賛し合うことで，実践する喜びや自信を育て，次の実践への意欲を高めることもできます。

学びの獲得と
新たな学びの創出

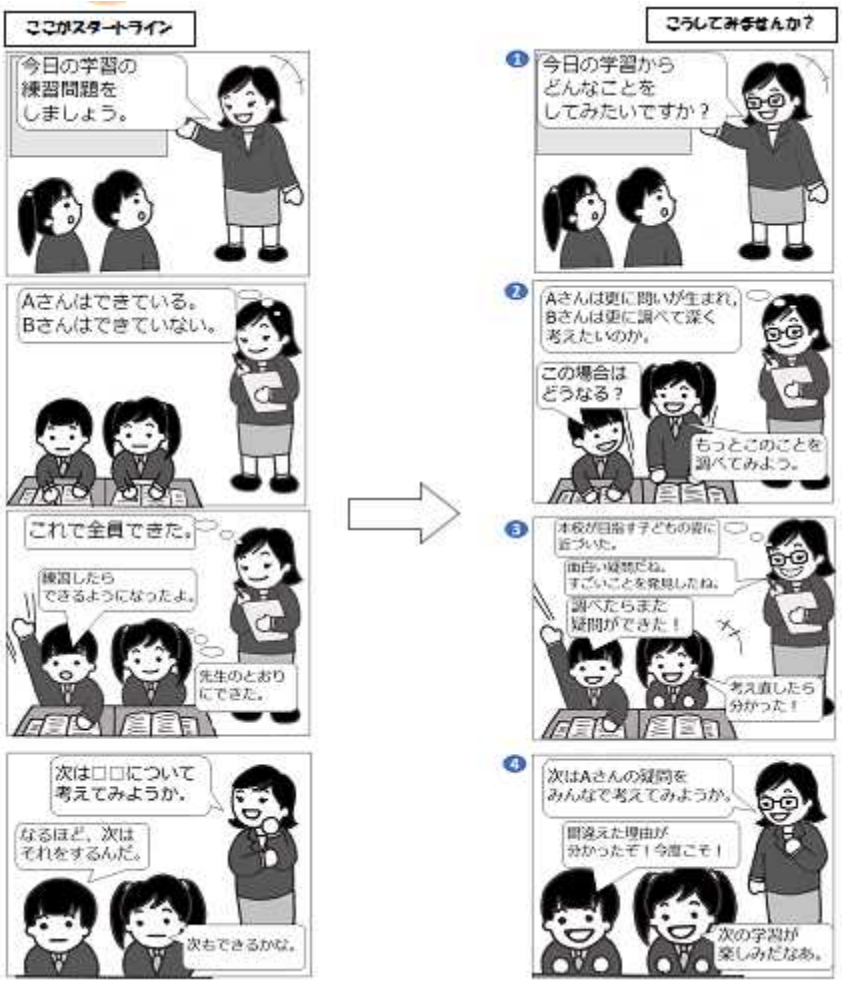
連続する学びは力へ。
新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。



キーワード

実生活との関連付け

ワークシート等の工夫



1　活用・発揮を促すために

◇学んだことが生かされる場面を設定する

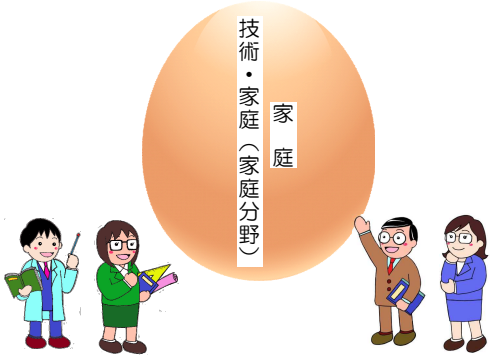
学習した内容が実際の生活や地域社会と深く関わっていることに気付かせたり，認識させたりする活動を取り入れましょう。

例）
・小学校「快適な住まい方」
整理・整頓や清掃の仕方の学習を生かして，教室の掃除の方法を検討し，グループごとに年度末の大掃除の計画を立案する。
・中学校「住居の機能と安全な住まい方」
家庭内事故の防ぎ方の学習を発展させて，地域の高齢者や幼児が来校する場面（学校祭や運動会等）を想定し，学校内の安全対策のための点検を行う活動を取り入れる。
・高等学校「防災などの安全に配慮した住生活とまちづくり」
高齢者との関わりの学習と関連させ，地域の街並みを見直して課題を発見し，高齢者等が安心して生活するための対策や改善のアイデア等を出し合ったり，衣生活の学習を生かして，防寒対策用の膝掛け等を作成し，駅の待合室に設置したりする学習活動を取り入れる。　等も考えられます。

◇振り返りから課題を引き出す

ワークシート等に記入した振り返りや感想等を，子どもが互いに見合うなど，共有する時間を設定しましょう。

例）チャート化（図表化）
　レーダーチャート等を活用し，学習前後の自分の考えを記入できるようにしておくと，自己の変容等を視覚的に捉えることができ，新たな課題にも気付きやすくなります。また教師がクラスの状況をデータ化しておき，子ども同士で比較できるようにすることも有効です。



Akitaractive Eye
主体的・対話的で深い学びのために　vol.03

2　学びを見取るために

◇評価方法を検討する

・目指す子どもの姿を明確にしましょう。
・子どもの変容が継続的に見取れるよう，ワークシート等を工夫しましょう。

例）「調理計画」の授業

ねらい）自分なりに調理計画を立てることができる。

左のような目標では，自分なりに調理計画を立てることができていれば良いことになります。調理計画の質を高めるために必要な条件を明らかにし,より具体的な目標を設定する必要があります。そうすることで,評価規準も一層明確になります。

ねらい）調理を行う際の多様な視点を踏まえて，何が大切かを考え，工夫して調理計画を立てることができる。
評価規準）栄養や調理手順，衛生・環境等，多様な視点に気付き，それらをもとに調理計画を考えることができる。

◇授業プランを修正する

・製作，実習では，計画に従って進めることができているか，目的に合っているか等を確認する場面を設定しましょう。
・子どもの進度差に配慮した多様な支援資料を準備しておきましょう。

例）被服製作等の進度差が出やすい学習活動では，ペア学習の場面を設定したり，実物標本などを用いて具体的に作業手順を示したり，早く進んでいる子どもにミニティーチャーをお願いする等の工夫が考えられます。

3　学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

・振り返りの場面等で，子どもの記述を取り上げ，学びを価値付けましょう。
・自分の考えを発表する場面を設定することで個々の考えを共有できるようにしましょう。

◇フィードバックして働き掛ける

・観察・実験の結果をまとめた後，子どもの事前の予想と比較し考えさせる場面を設定しましょう。
・子どもの振り返り等を生かし，学習した内容を家庭で実践するよう呼び掛けたり，実生活での活用をイメージさせる声掛けをしたりしましょう。

例）学習したことを生かして，「自分や家族が取り組めることは？」といった声掛けをすることが考えられます。

4　新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

・自分の成長を自覚できるよう，ワークシート等を工夫しましょう。
・実践発表会等，学習全体を振り返ることができる場面を設定しましょう。

例）体験活動を伴う際には，活動の記録をまとめて，グループで話し合い，課題や改善策等を再検討する活動が考えられます。

◇新たに学びが連続するようにする

・本時の終末場面で，次時の課題を把握させましょう。
・この後の授業で活用したり，参考にしたりできるよう，子どもが記入したワークシート等を家庭科室に掲示しましょう。

例）実践レポートや，製作物の写真をポスター形式でまとめて掲示する等の工夫が考えられます。

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～